

☆☆図書室だより☆☆ ☆第13号☆

☆☆ー 図書委員会よりお知らせ ー☆☆



2013年 9月(後期)~11月(前期) 新規登録の書籍をご案内します

書名(購入書)	著者名など	出版社	分類シール
現代人はキリスト教を信じられるか 懐疑と信仰のはざままで	ピーター・L・ バーガー 著 森本あんり 篠原和子 訳	教文館	[赤 191.8 B]
書名(ご寄贈書)	著者名など	出版社	分類シール
ベツレヘムの星	アガサ・クリスティー 著 中村能三 訳	早川書房	[黒 933.7 C]
キリスト教的生 I	カール・バルト 著 天野 有 訳	新教出版社	[赤 191.9 Ba I]
キリスト教的生 II	カール・バルト 著 天野 有 訳	新教出版社	[赤 191.9 Ba II]
カール・バルト説教選集3 1913~1914	雨宮栄一 他 編 大崎 節 他 訳	日本基督 教団出版局	[赤 191.9 Ba3]
カール・バルト著作集5 倫理学論文集	井上良雄 吉永正義 訳	新教出版社	[赤 191.9 Ba5]
カール・バルト著作集10 教義学要綱 福音主義神学入門	井上良雄 加藤常昭 訳	新教出版社	[赤 191.9 Ba10]
カール・バルト著作集15 死人の復活 ピリピ書注解 ローマ書新解	山本 和 川名 勇 訳	新教出版社	[赤 191.9 Ba15]

おすすめ本のご紹介… 大宮 溥 阿佐ヶ谷教会名誉牧師より

『現代人はキリスト教を信じられるか 懐疑と信仰のはざままで』

ピーター・L・バーガー 著 森本あんり 篠原和子 訳 教文館 2009年6月発行

阿佐ヶ谷教会の有志が読書会を始めて10年近くなりました。キリスト教と宗教にかかわる多様な本を読みましたが、ここに紹介するのは最近読み終えたばかりのものであります。著者のピーター・バーガーは1929年オーストリア生まれ、第2次大戦後米国に移住した宗教社会学者で、『聖なる天蓋』、『天使のうわさ 現代における神の再発見』などの著書で知られています。本書は、キリスト教の基本の信仰告白である、使徒信条を取り上げ、それを「われ信ず」、「神」、「全能の父」等、12章に分けて、自分の信じることを論じたものであります。これまでの代表的な解釈を取り上げ、それとの対話の中で、信仰の核心に迫ります。説得力があると共に、独断的でない叙述から、読者会の出席者たちは自分の信仰を確認することができました。阿佐ヶ谷教会でも、戦後バルトの『教義学要綱』などで使徒信条が熱心に学ばれましたが、21世紀における信仰の確認のためにお勧めしたいと思います。

分類(赤 191.8 B)

鑑賞して… … (教会員の感想文より)



『クリスマス講話：マリア・ヨセフ・おさなご・老人』

佐藤全弘 著 教文館 分類〔橙 193.6 Sa〕

クリスマスが救い主イエス・キリストの降誕日であると、どれだけ真に受け止めていたのか、自分の信仰のいい加減さに愕然としている。

この本は、著者が1996年から4年間、クリスマス前に語った4つの講話「イエスの母マリア、ヨセフという名の男たち、主が愛された幼な子と老人」が収録されている。イエス様を宿していることを天使から知らされた時のマリアの言葉、「お言葉どおり、この身に成りますように(ルカ1:38)」は当時14,5歳と思われる一人の女性の信仰が生活と命をかけた大いなるものであって、マリアが告知を受け入れなければ歴史は変わっていたと述べている。

老人についての章では、高齢期は伝道の時であると。私も老境に入りつつある今、マリアの信仰のひとかけらでも伝道できたら。クリスマスとは、神が人となられた出来事がどれほどの大きな恵みであるのか、私達の信仰が深められるほどに、その奥義を見せて頂ける時であるのかも知れない。今年は厳粛に迎えたい。(YY)

『ベツレヘムの星』

アガサ・クリスティー 著

中村能三 訳 早川書房 2003年 分類〔黒 933.7 C〕

この本には、エルキュール・ポアロもミス・マーブルも登場しません。

アガサ・クリスティーの短編集としてはめずらしい、聖書物語の一冊です。

巧みな視点の移動、細やかな心理描写、ページを捲るごとのわくわくする展開。最後までわからない結末。上質なミステリーの筆致によって、普段と違う聖書の登場人物が生き生きと語り始めます。

題材は普通の聖書のおはなしなのに、どうしてこれほど感動するのだろうか。漫然と聖書を読んでいたことを思い知り恥じるばかりですが、とても暖かなストーリーばかりです。推理小説が苦手な方にこそお勧めです。メリークリスマス。この本の謎はみんなが解くのです。主の導きがありますから。(M.I)

『おもしろキリスト教Q & A 77』

山北宣久 著 教文館 分類〔赤 190 Ya〕

山北宣久・青山学院院長が前任の聖ヶ丘教会の会報に長く連載していたキリスト教Q & Aを一冊にまとめた本です。2011年6月の特別伝道礼拝で触れた先生の駄洒落の賜物はこの本でも遺憾なく発揮されていますが、当意即妙なQ & Aを通してキリスト教の大切な教えを分かりやすく解き明かして、読んで笑った後には教理がしっかりと頭に入ります。聖書箇所がたくさん明示してあるので聖書を開きながら読むのがお勧めです。キリスト教を知らない人だけではなく、長く教会生活を送っている人にも教理理解を整理するのに役立つ本であると思います。(U.M)

☆☆

図書室をご利用になる際、もし、地震を感じましたら、いちはやく、ドアを開けて図書室から外に出て下さい。本が沢山落ちてくるとドアが開かなくなる可能性があります。怪我をしないように、充分注意して下さい。

☆☆

図書委員会では教会員や教会を訪れる人たちの信仰生活にお供出来るような図書室作りを目指しています。主な「註解書」は積極的に、「説教集」や「信仰録」などは厳選して揃えるようにしております。しかし、スペースや予算が限られていますので、図書の選び方、配架、管理方法など、検討課題は尽きません。みなさまからの温かいご意見もいただけると幸いです。